

平成29年度

新博物館機能検討特別委員会

調査研究結果報告書

平成30年 5月

豊田市議会

【目 次】

1	設置の経過	1
2	調査研究事項	2
3	委員会等開催状況と内容	3
4	調査研究結果	4
5	提言	10
6	終わりに	12
	【添付資料】	13

平成30年5月7日

豊田市議会議長
三 江 弘 海 様

新博物館機能検討特別委員会
委員長 近 藤 光 良

新博物館機能検討特別委員会

調査研究結果報告書

本委員会は、平成29年5月17日の本会議において設置されて以来、委員会の設置目的を達成するため、調査研究を進めてきた。

これまでの経過と活動について、その結果を報告する。

記

1 設置の経過

(1) 市は、平成2年、豊田市文化ゾーン整備基本構想において、文化ゾーン内での博物館・美術館の建設を計画した。その後、教育行政計画や第7次総合計画へのふるさと歴史館整備事業が位置づけられるなど、建設に向け検討が進むが、平成21年のリーマンショックなどの影響で、事業推進は見送られることとなった。

その後、平成22年度の豊田市文化ゾーン基本構想の中に歴史継承拠点が位置づけられた。平成26年度には、生涯学習審議会に対して、「豊田市文化ゾーンにおける文化創造拠点及び歴史継承拠点の整備方針について」の諮問があり、平成27年度には歴史継承拠点は歴史と自然を一体的に取り上げる総合博物館として整備すること、立地としては豊田東高校跡地が最適であることなどが答申された。それを受けて、平成28年度には「豊田市文化ゾーンにおける文化創造拠点及び歴史継承拠点の整備方針」が策定されている。

平成28年には基本構想策定委員会を開催するなどし、平成29年3月「豊田市新博物館基本構想」を策定した。

この基本構想の策定を受け、市議会でも豊田市の新たな顔となる「博物館」について、調査研究を行うために本委員会が設置された。

(2) 平成29年5月17日の本会議において設置され、11名の委員が選出された。

岡田 耕一	榎屋小百合	加藤 和男	北川 敏崇
木本 文也	近藤 光良	中村 孝浩	羽根田利明
日當 浩介	日恵野雅俊	山田 主成	

(3) 同日開催された委員会において、委員長に近藤光良、副委員長に羽根田利明をそれぞれ互選した。

2 調査研究事項

(1) 設置目的

新博物館基本構想に基づき、豊田市のあゆみを物語る資料を収集し、その価値・魅力を発信する新博物館の建設を目指すため、新博物館の機能、市民文化会館・美術館との連携及び建設にあたっての課題について調査・研究を行う。

(2) 調査研究事項

- ①豊田市における博物館のあり方や役割、開館に向けた諸課題等
- ②何度も訪れたいくなる博物館の魅力づくり（機能）
- ③文化ゾーン全体での連携や中心市街地の活性化に向けた博物館の取組
- ④利用しやすい公共交通、駐車場など、交通アクセスの充実

(3) 調査期間

平成29年5月17日 ～ 平成30年5月7日

豊田市の代表的な文化財・資料等



織田信長象



豊田大塚古墳須恵器



初代トヨタカローラ

3 委員会等開催状況と内容

回	期 日	内 容
1	平成29年5月17日(水)	・正副委員長の互選について
2	6月23日(金)	・新博物館基本構想について ・調査研究事項について ・年間活動スケジュールについて ・行政視察の日程について
3	7月21日(金)	・調査研究事項について ・委員の派遣について
4	8月7日(月)	・委員の派遣について ・建設予定地の現地視察
5	8月17日(木)	・三重県立博物館への行政視察について ・意見交換について
6	9月12日(火)	・特別委員会での意見の方向性について ・基本計画策定に向けたスケジュールについて ・行政視察(案)について ・委員の派遣について
7	9月22日(金)	・執行部より説明(展示方針やネットワーク、用地、 進入路等について) ・視察先情報について
—	10月11日(水) ～10月12日(木)	・行政視察の実施 山梨県立博物館 神奈川県相模原市立博物館
8	10月20日(金)	・執行部より説明(新博物館基本計画策定委員会の 内容について) ・視察後の意見交換について ・委員の派遣について
9	10月23日(月)	・豊田市駅から建設予定地へ徒歩にて現地視察
10	11月13日(月)	・現地視察の意見交換について ・第2回新博物館基本計画策定委員会での意見につ いて
11	11月22日(水)	・提言のまとめに向けた意見交換について
12	12月14日(木)	・新博物館基本計画について ・特別委員会の提言の方向性について ・委員の派遣について
13	平成30年1月30日(火)	・調査研究結果報告書(案)について
—	1月31日(水)	・美濃加茂市民ミュージアムの視察
14	2月15日(木)	・調査研究結果報告書(案)について

15	2月26日(月)	・博物館の施設計画について ・調査研究結果報告書(案)について
16	3月5日(月)	・基本計画策定委員会の内容について
17	3月30日(金)	・調査研究結果報告書(案)について
18	4月10日(火)	・調査研究結果報告書(案)について
19	5月7日(月)	・調査研究結果報告書(案)の最終確認について

4 調査研究結果

(1) 豊田市新博物館基本構想について

教育行政部(文化財課)、生涯活躍部(文化振興課)から、新博物館基本構想についてヒアリングを行い、事業を推進していくために、現在の取組状況や現状の課題、今後の進捗について意見交換を行った。

(なお「豊田市新博物館基本構想」については、概要版を添付資料②として添付)

豊田市新博物館基本構想について ～主要項目抜粋～

■基本理念 ふるさと力創造・発信拠点

⇒多様な自然・文化的背景をもち、様々な出身地の人々が集い暮らす豊田市。
あなたの暮らしに気づきをもたらし、「ふるさと力」を育てるためのみんなであつくり続ける博物館です。

■新博物館の使命

- (1) 市民と共に豊田市の歴史・文化財・自然を発見し、守り、未来へ伝える
- (2) 身近なきっかけや体験から主体的な学びを育む
- (3) 多様な人々や文化が会う場となり、豊田市の魅力や新たな価値を生み出す

■新博物館の機能とめざす姿

⇒市民と共に新たな価値を創造するために必要な機能

- ・博物館基盤機能(収集・保存、調査・研究、展示・公開)
(豊田市の歩みを物語る資料を収集・調査し、その価値・魅力を発信する)
- ・出会い・交流機能(多様な人々が集う場や機会をつくる)
- ・学習支援・創造機能(市民の郷土愛や活力・活動を育む)
- ・ネットワーク機能(地区間の回遊と交流を促進する)

(2) 行政視察による調査

三重県立総合博物館（8月17日視察）

(1) 博物館概要

- 開館 平成26年4月リニューアルオープン
- 活動理念 ともに考え、活動し、成長する博物館
- 使命 ①三重の資産の保全・継承
②人づくりへの貢献
③地域づくりへの貢献
- 館内状況 交流創造エリア、展示エリア、ミュージアムフィールド
- 愛称 MieMu（みえむ）（平成25年公募により決定）

(2) 評価

- ・最初にメイン展示としてインパクトのある展示（ミエゾウ）があることは重要である。
- ・将来のことを見越し、増築エリアを考えている点は評価できる。
- ・子どもたちが興味を引くような展示が多く、学びの場としての役割が果たされていると感じた。さらには、子どもたちが、来なくなる仕掛けが多く、それが利用者の増加につながっている点は評価できる。

(3) 意見

- ・館の運営で大切なのは学芸員だと感じた。採用、育成が重要であり、建設にあっても、しっかり意見を反映させられる学芸員が必要である。
- ・子どもに対しての補助を充実させていたが、今後急激な高齢化が進む豊田市は高齢者に配慮した仕組みも検討すべきである。
- ・集客の方法としては、ホール、ギャラリーなどの多目的・一般利用できるものが必要だと思う。



展示ではデジタルコンテンツも活用



最初にミエゾウの展示がお出迎え

※館内見取図を添付資料③として添付

山梨県立博物館（10月11日視察）

（1）博物館概要

●開館 平成17年10月

●基本的テーマ 「山梨の自然と人」を活動の基本に置き、山梨の豊かな自然と人々がどのように向き合ってきたのかという歴史を総合的に調査研究し、それらの成果をこれからの地域振興の重要な指針として展示できる博物館を目指す。

●博物館の基本的な性格 ①歴史に重点を置いた博物館
②参加体験・交流型博物館
③ハブ博物館
④成長する博物館

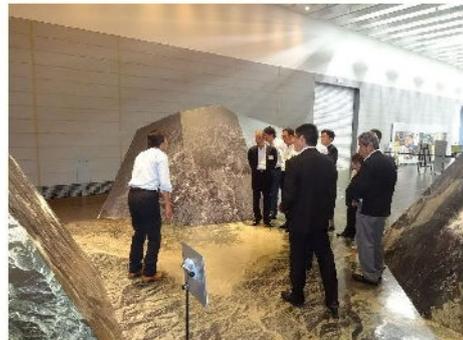
●愛称 かいじあむ（平成16年公募により決定）

（2）評価

- ・エントランスの地図情報は大きな関心を抱かせる展示であり、効果的である。
- ・増築の余地も確保されており、今後の収蔵庫などの拡大も可能となっている。
- ・小・中学生によく利用されており、教育面での連携がしっかりとれている点はよい。
- ・評価制度を取り入れている点は評価できる。
- ・施設全体が平屋建てであり、それがバリアフリーにつながっている。

（3）意見

- ・施設利用者を増やすには、教育機関との連携が重要と感じた。
- ・合併により広大となり、自然豊かな土地柄の本市とコンセプトが似ており、そういった点は考慮する必要性を感じた。
- ・ある程度の予算をかけないと中途半端な施設になってしまう恐れがある。
- ・建設予定地の地形をうまく利用した博物館建設が必要である。
- ・豊田市の博物館として、自動車を外すことはできない。そうでなければ豊田市に作る意味がない。



入口にある山梨県を衛星写真で現す展示は来場者の興味を引く

※館内見取図を添付資料③として添付

神奈川県相模原市立博物館（10月12日視察）

（1）博物館概要

- 開館 平成7年11月
- 特徴
 - ・相模原の歴史や、自然を扱う総合博物館
 - ・JAXA(相模原キャンパス)との連携(企画展、講演会など)
 - ・プラネタリウム施設を設置
- 平成29年度重点目標
 - ①展示・教育普及事業の推進
 - ②積極的な情報発信事業の推進
 - ③施設及び関連施設の維持管理
 - ④市史・町史編纂事業の推進
 - ⑤博物館評価の実施

（2）評価

- ・JAXAとの連携の影響が大きい。また、プラネタリウムは集客面で効果的である。
- ・施設主催の講演会が多く企画されており、文化の中心施設としての機能を果たし、集客にもつながっている。
- ・SNS以外にも、図書館の返却票の裏面を活用するなど、非常にPRに力を入れている点は評価できる。
- ・地域の高齢者の利用が多く、健康面にも寄与している。

（3）意見

- ・公共だけでなく、民間との連携も重要である。
- ・民間ボランティアの協力が必要であり、そのための人材育成が重要である。
- ・周辺の団体や施設などとの連携が非常に重要である。
- ・利用率の低い層、情報が伝わりにくい層にどうやってお知らせしていくのか、苦労されていると感じた。特に車での来場者に対する配慮など、アクセスはしっかり検討すべきである。
- ・ランニングコストの考え、メンテナンス費用のかかりにくさという面は重要だと感じた。



JAXAとの連携により、
宇宙教育・天文展示が充実

※館内見取図を添付資料③として添付

岐阜県美濃加茂市民ミュージアム（平成30年1月31日視察）

(1) 博物館概要

- 開館 平成12年10月
- 理念 「自然との共存」、「学校教育との連携」、「市民のちから」、「地域づくり」
- 目指す形 4つの理念のもと、人々のくらしの一部として利用され続けるとともに、まちや社会にとって必要とされる場になること

(2) 評価

- ・宿泊やアトリエ、ホールなどの貸出での集客、人を呼び込む方法が素晴らしい。集客のためには、複合施設というのは、効果的な考えである。
- ・施設周辺の道路がしっかり整備され、大型車用も含め、駐車場もしっかり用意されている。訪れやすい施設だと感じた。
- ・長い年月をかけて市民理解を得て、開館に至っている。市としての努力が感じられる。
- ・教育センターが同じ建物にあることで、教育との連携が図られていると思う。

(3) 意見

- ・合併により広域となった豊田市の様々な地域をどのように魅せていくのか。各地域の資料館に繋ぐことも考えながら、取り組む必要がある。
- ・スクラップビルドの考えで、複合施設的な博物館とすると市民理解を得やすいと思う。（美濃加茂市は教育センターと併設）
- ・組織の問題として、博物館の担当を一本化しておくのが良い。



※館内見取図を添付資料③として添付

一般貸出を行っている
120席のホール

(3) 豊田市駅から博物館建設予定地へ徒歩での現地視察の実施

平成29年10月23日、名鉄豊田市駅から建設予定地（県立東高校跡地）まで、実際に公共交通での来場が予想されるルート歩き、さらには敷地内の視察を行った。

委員から出された主な所感・意見等

【駅からのルート】

- ・博物館を楽しむだけでなく、駅から博物館までのルートも楽しみの一つになるべきであり、そのルートにわくわく感や魅力の創出が必要である。
- ・人が歩けば魅力のあるところになっていくと思う。歩いてみたいという環境づくりが必要である。

【進入路・アクセス】

- ・メイン道路となる国道から、分かりやすく、入りやすい入口が必要である。
- ・現在の国道からの乗り入れは、非常に急斜面であり、検討が必要である。
- ・やはりここは車で来るところだと感じた。そのためには西側からのアプローチも考えるべきであり、住宅の移転なども考えながら取組むべき。
- ・地形を活かし、高低差がある東側から地下道やトンネルといった方法でのアクセスを考えるべきであり、人が来やすいアクセスを検討すべきである。

【駐車場】

- ・集客という点で、やはり駐車場は建物の近くに必要である。
- ・東側法面下から地下に入る地下駐車場という案は検討できないか。

【その他】

- ・敷地東側を中心に景観を整理することが必要である。
- ・隣接する美術館と合わせた景観づくりや高低差を考慮した使い方に配慮する必要がある。
- ・駐車場と合わせて、増築スペースを検討すべきである。
- ・県立東高校で使われていた校門や時計塔など、何らかの形で活用できないか。



傾斜がある国道(北側)からの進入路



東側道路との高低差

(4) 博物館の施設計画について

平成30年3月に開催された豊田市新博物館基本計画策定委員会に合わせて、現段階での案として、施設規模（案）が提示された。これを受けて特別委員会としても、他市の施設面積事例を参考に、施設の各機能、諸室等について比較検証を行った。

※比較検証を行った資料を添付資料④として添付

※特別委員会として、特に強調したい提言項目については、二重下線「 」で表記

5 提言

調査研究事項に沿って特別委員会で議論を進めてきた内容について、本特別委員会の設置目的を踏まえた上で、項目分けし、具体的な取組内容も含め、以下のとおり提言する。

1) 博物館の意義の明確化

①中心市街地の活性化との関連および集客施設としての位置付の明確化

都心環境計画と連携し、中心市街地の活性化に結び付くような博物館の取組を示す。

②既存関連施設との関係整備

市内文化施設との関係性を整理し、特に郷土資料館や近代の産業とくらし発見館などは機能集約を進め、建設の意義を明確にした上で、費用削減を検討する。

③来館者に伝えたい核となるテーマの明確化

ものづくりのまちとして発展してきた経緯を明らかにし、隣接する官民博物館等との違いを打ち出す。

④市民との合意形成

市内各地域、また様々な場所を利用し、市民への理解活動を行い、市民との合意形成を図っていく。

2) 建設予定地及び周辺環境整備

①現在の用途地区は第1種住居専用地域であり、用途地区の変更が必要

施設計画の進捗と合わせながら、関係部署・機関と協議を進め、計画地を適切な用途地域へと見直しを行う。

②博物館周辺住宅街の環境整備

周辺道路、駐車場、景観など、将来に渡って市の文化の中心となり得るために周辺も含めた一体的な環境整備を行う。

③緑地の整備と活用

- ・中心市街地からの視認性確保
- ・周辺住宅地、美術館を考慮した緑地、景観計画

周囲から目につきやすくしながらも、周辺環境に配慮した景観が求められる。

④美術館との一体的な敷地利用

敷地が隣接する美術館と約2mの高低差はあるものの、エントランスでつなぐなどの一体的な利用を進める。また、共用施設を設けることも検討すべきである。

3) 施設へのアクセスの充実

①交通拠点である豊田市駅前からのアクセス道路の魅力付け

博物館に対するワクワク感を創出し、リピーターにもつながる取組として必要である。

②自家用車、バスでのアクセス動線確保

- ・市民文化会館側又は東側からの進入路検討
- ・敷地の高低差(約8m)を考慮したバスの駐車場位置検討

施設を作ったが、人々が来にくいことがないよう、市内・市外の人、様々な世代の人が訪れやすいようなアクセス、駐車場を検討する。

③美術館及び市民文化会館駐車場との連携策と駐車場からの歩行者通路の確保

単館での駐車場だけでなく、文化ゾーン（※添付資料①参照）内にある複数の駐車場を一体として捉え、来訪者視点で利用しやすい整備を行う。

④周辺施設の利用も考慮した公共施設循環バスルートの設定

美術館、市民文化会館、博物館の3館が並ぶ文化ゾーンを中心に、効率的な利用が図られるルートを設定する。

4) 博物館の機能

過去の歴史を振り返り、これからの新たなまちづくりに資する豊田らしさを前面に打ち出した創造的かつ個性的な機能を有した博物館を目指すべきである。機能については以下の通りである。

①常設展示

・ 歴史と風土を生かしたものづくりのまちへのプロセスを見せること

・ 博物館のシンボルとなるエントランスホールの展示

館のシンボルとなる展示は非常に重要と考える。また、ボランティアガイドの育成はリピーターの創出、スタッフのやりがいにもつながる。

②企画展示

・ 合併した各地の歴史・文化の展示及び地域施設との連携

・ 話題性の高い展示の企画と誘致活動

・ 展示内容及びPR活動について地元企業、マスコミとの連携

・ 隣接する美術館と連携した事業や取組

市内各地の多様な風土、歴史を多くの市民が知る機会となることを期待したい。また、美術館との連携による質の高い展示の企画や市民にとって関心の高い展示の企画が望まれる。

③学習支援・創造機能

・ 小・中学校を主とした学校教育施設としての活用策

・ 市民ボランティアによる展示ガイドと育成

ふるさとの歴史を知る教育施設として、子どもたちを巻き込むことは重要である。ただし、教育に特化し過ぎず、遊びながら歴史に触れられたり、来訪者が気軽に訪れたりすることができるような仕組み作りも必要である。

④ネットワーク機能

・ 市内の資料館や関係団体、企業等とのネットワークによる運営支援確立

・ 収蔵庫は増設ならびに美術館との連携の可能性を検討

この博物館がハブ的存在となり、他の資料館等に繋げる役割を務めることが必要である。また、「ツーリズムとよた」とも連携し、市の観光の入口となることも期待される。

⑤出会い・交流機能

・ 関連他施設との複合

・ 集客性及びリピーターを増やす方策

来館者がくつろげる空間、郷土料理を楽しめる施設、歴史と郷土文化を体験できる施設、歴史・文化に関わる団体等の活動拠点を設置・確保していく。また、市民ギャラリーや多目的ホール・会議室、フリースペース等との複合化や、飲食、ショップなどにおいて民間活力を活用することで、より集客と収益を高める必要がある。

5) 建設推進策

①建設費の確保策の検討

建設のための基金創設や他施設との機能集約なども検討し、建設費や運営費、維持管理費等を考慮した予算の平準化に努める。

②建設予定地内の既存施設の早期撤去及び具体的な建設スケジュールの明示

現在、建設予定地の校舎を早期に撤去し、博物館建設のPR活動用地とする。さらに建設までの具体的なスケジュールを明示することで、建設の気運を盛り上げていく。

③展示内容にふさわしい施設名称や、市民が親しみの持てる愛称についての検討

博物館という名称を含め、施設の愛称についても、多方面の意見を聞きながら進めていく。

④事業推進のための庁内体制を確立

この事業は、文化財課、文化振興課、都市整備課、商業観光課、都市計画課など複数の課が関わることから、関係各課を含めた推進体制を確立する。

また、建設が具体化する時期には、学芸員を含めた準備体制の強化が必要である。

6 終わりに

平成29年度から始まった『第8次豊田市総合計画』に「博物館整備事業」が盛り込まれた。博物館整備の理由としては、現在の郷土資料館における老朽化や収集・保存に関する機能が備わっていないことなどが挙げられるが、他に大きな理由として、

- ①豊田市はこれまで昭和、平成の合併で市域を拡大し、歴史と文化の異なる多くの地域の融合体であり、これにより消失しつつある地域文化の特性と誇りを継承し、貴重な文化財を保護すること
- ②なぜ豊田市が世界に誇るものづくりのまちとなったのか、豊田市は一体どのようなまちか、に関心を持つ市内外の人たちが多く、これに応える施設が必要であり、この施設は中心市街地への集客施設にもなること
- ③次世代のこどもたちに郷土の歴史と文化をわかりやすく伝えるとともに「ふるさと・豊田市」に誇りを持ち、さらなるまちの発展を考えるための施設となること、が挙げられる。

そのためには、豊田市の成り立ちを的確に伝える施設であり、かつ豊田市民に親しまれる施設を計画することが望まれる。

しかし、博物館の計画について、現状は市民の中で関心のある割合はまだ低いと感じられる。平成30年度も継続されることになった基本計画策定作業の中で、児童・生徒や市民への周知を今以上に進める必要性を感じる。周知活動を通して、この施設の重要性と、多世代の市民が楽しめ、将来の豊田市にとって価値のある投資であることを説明することが求められている。そのためにも、行政先行の施設づくりでなく、市民及び市民の声を代弁する議会も連携して施設計画に携わる必要がある。

ただし、市の財政状況が厳しくなることが予想される中での施設整備となるため、その状況をよく見極めながら、事業推進策についての検討が重要と考える。

最後に、新博物館機能検討特別委員会は、平成29年5月に設置され、約1年間の調査・研究を行い、これで終了するが、新博物館基本計画策定作業は平成30年度も継続される。市議会として、今後は常任委員会である教育社会委員会を中心に、新博物館基本計画策定作業の内容をチェックしながら、ユニークで、活気のある博物館となるように意見を表明していくことが望まれる。

【添付資料】

- ①現在の文化ゾーンの状況
- ②豊田市新博物館基本構想(概要版)
- ③行政視察を実施した博物館の館内平面図等
- ④博物館施設の他市の施設面積

※資料提供元

- ①, ②：執行部提供資料
- ③：他館資料を基に委員会資料として作成
- ④：執行部資料を基に委員会資料として作成

①現在の文化ゾーンの状況

◆文化ゾーン周辺の現況



- ・市道小坂樹木線沿道には、住宅が多く立地。
- ・文化ゾーンの拠点施設である美術館や市民文化会館、旧豊田東高校跡地などの公共施設は、大規模な建築物として立地。

◆文化ゾーン周辺の用途地域現況



- ・文化ゾーン中心部（旧豊田東高校跡地、美術館周辺）
⇒第一種住居地域
- ・市民文化会館以西
⇒第一種中高層住居専用地域
- ・国道153号沿道
⇒第二種住居地域

1 新博物館の必要性

(1) 豊田市を取り巻く状況と課題

市域の拡大、流入人口の多さがもたらす歴史・文化の多様性	地域の歴史・文化に対して興味を持つ市民の増加	社会の転換期におけるまちづくりに対する発想の転換
-----------------------------	------------------------	--------------------------

「WE LOVE とよた」の気運の高まり

新豊田市としての歴史・文化の共有と、市民のアイデンティティの確立	市民の学習支援充実と、学校教育との連携強化	歴史・文化を活かした、市民の生きがいや地域の新たな価値・魅力の創出
----------------------------------	-----------------------	-----------------------------------

(2) 豊田市郷土資料館における課題

①施設・立地

- ・開館後 50 年たち、老朽化による施設の不備・不足が著しい
- ・浸水区域にあるため、市の宝の保管・継承施設として不適

②収集・保存

- ・収蔵庫や展示施設が狭く、温湿度調整機能などの設備も不足しているため、貴重な文化財の収集・保存や公開が行えない

③調査・研究

- ・市民が学習したり発信する機会や場が確保できない

④展示・公開

- ・新豊田市全体を紹介する展示になっていない
- ・展示面積が狭いため、特別展の際には常設展がみられない
- ・ハンズオン※1や映像、体験型プログラム等がない

⑤教育普及

- ・郷土学習スクールサポート事業※2に必要な設備が不十分(学習空間・機能、大型バスの駐車場、昼食スペース等)
- ・とよた歴史マイスター※3など、市民の活動スペースがない
- ・市内の地域・個別資料館への支援・活用が不十分

市民と来訪者が市全体の歴史・文化を知る施設がない

新博物館の整備が必要

2 基本的な考え方

(1) 基本理念

ふるさと力創造・発信拠点

多様な自然・文化的背景をもち、様々な出身地の人々が集い暮らす豊田市。ここは、あなたの暮らしに気づきをもたらし、「ふるさと力」を育てるためのみんなで作る博物館です。

「ふるさと力」とは……

- ①一人ひとりが自ら「ふるさとを大切に思う力」
- ②交流や活動を通して再発見する「ふるさとの魅力」「ふるさとをつなぐ力」
- ③多様な歴史・文化・自然と、多様な価値観が会うことによって生みだされる「ふるさとの創造力」

(2) 新博物館の使命

- 1 市民と共に豊田市の歴史・文化財・自然を発見し、守り、未来へ伝える
- 2 身近なきっかけや体験から主体的な学びを育む
- 3 多様な人々や文化が会う場となり、豊田市の魅力や新たな価値を生み出す

3 新博物館の機能とめざす姿



松平親氏や西澤真蔵などの成し遂げたことかと思いが、このまちの今につながっているんだね。

僕もこのまちにとって大切な人になれるといいな。



息子の住むまちは素敵なところね。行ってみたいわ。

足助は香嵐溪が有名ですが、町並みもとても情緒がありますよ。

博物館基盤機能 収集・保存 調査・研究 展示・公開

豊田市のあゆみを物語る資料を収集・調査し、その価値・魅力を発信する

- 歴史とそれに関わる文化財・自然を一体的に扱う県内唯一の総合博物館として、矢作川の源流から三河湾までを俯瞰した上で、豊田市の歴史と現在・未来を位置付ける。
- 貴重な資料を次世代へ継承するため、収集・保存、調査・研究、展示・公開など博物館の基盤機能を充実する。

新博物館の魅力

- 通史とともに、豊田市ならではの歴史を体感できる！
 - ・天下に号令した徳川家のルーツである「松平家」のフロンティア精神、昭和期のモータリゼーションに挑んだ人々と地域が育んだ「ものづくり」等を知る
 - ・歴史的な出来事や精神がこのまちに今も息づいていることが感じられ、ふるさとのアイデンティティや誇りを実感できる
- ファミリーヒストリーにより博物館が成長する！
 - ・市民が自分や家族が体験した出来事を登録し「ファミリーヒストリー」を集積することによって、博物館で新たな豊田市の歴史を紡ぎ出す
 - ・自分もその歴史の一部であることを感じ、豊田市が身近に感じられる、また来たくなる
- 地域の発展や存続に役立つ！
 - ・人と自然との関わりを振り返り、新たな知を探ることで、地域の発展を目指す
- 博物館としての充実した機能！
 - ・博物館法における登録を受けた「登録博物館」、文化庁による国宝・重要文化財の「公開承認施設」を目指す
 - ・市内の指定文化財を積極的に受け入れ、未来に継承し、積極的な公開・活用を図る

わー、すごい！豊田市では養蚕が盛んだったんだよね。

これが授業で教えたお蚕さまよ。触ってみて。



私の住むまちの歴史って知れば知るほど面白いのね！

子どもたちにも祭りも続けてほしいな。



おじいちゃん、拳母祭りの偉い人だったんだね。

市民と共に新たな価値を創造するために必要な機能

出会い・交流機能

多様な人々が集う場や機会をつくる

学習支援・創造機能

市民の郷土愛や活力・活動を育む

ネットワーク機能

地区間の回遊と交流を促進する

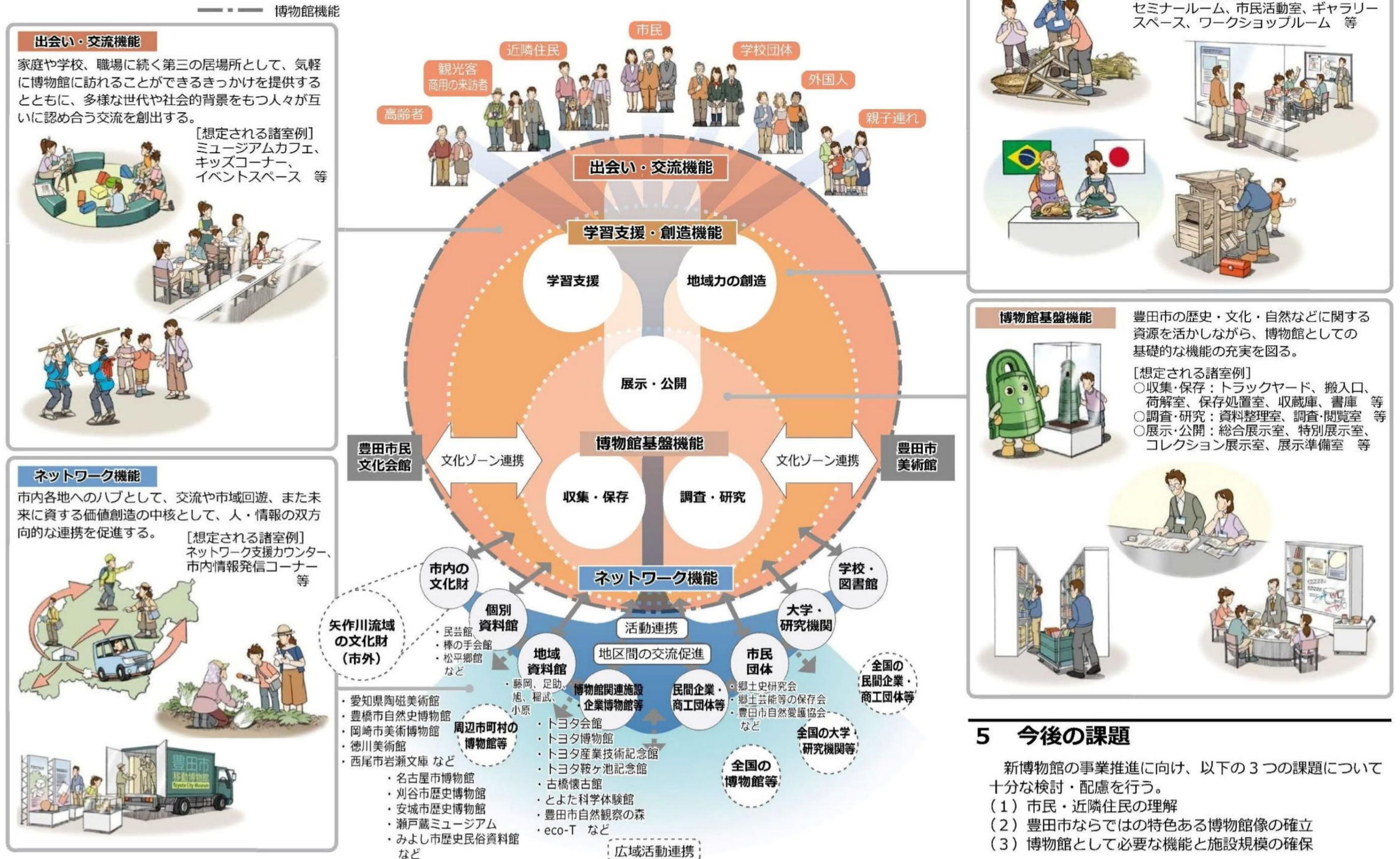
※1：実際に資料などに触ったり、動かしたりする体験型展示

※2：豊田市郷土資料館が推進する、市内の文化財（考古資料・文書・遺跡など）を学校教育で活用できるように、市内の学校向けに実施している授業のサポート

※3：豊田市郷土資料館が認定する、豊田市の歴史・文化財について関心を持ち、学び、伝える活動を行う人々（H28年度現在：64名）

4 新博物館の機能と事業活動の展開イメージ

以下のような博物館機能の構成により、多様な来訪者が博物館を利用し、興味を深め、博物館の多様な活動へと参画していく仕組みを構築する。



5 今後の課題

- 新博物館の事業推進に向け、以下の3つの課題について十分な検討・配慮を行う。
- (1) 市民・近隣住民の理解
 - (2) 豊田市ならではの特色ある博物館像の確立
 - (3) 博物館として必要な機能と施設規模の確保

※網掛け部分の施設については行政視察を行った施設
 ※2 今回提示案×下表平均率

④博物館施設の他市の施設面積事例（㎡）

			一宮市博物館	安城市歴史博物館	岡崎市美術博物館	四日市市立博物館	松戸市立博物館	入間市博物館	相模原市立博物館	三重県立総合博物館	山梨県立博物館	豊田市立美術館	豊田市立郷土資料館	平均	今回提示案	平均値にした場合(※2)
延べ面積			4,616	4,852	6,468	10,147	5,447	5,461	9,510	10,799	8,761	11,121	1,260	7,131	7,200	7,210
博物館 基盤機能	展示	常設	742	836	0	1,020	1,441	1,798	1,746	820	2,007	2,095	225	1,157	900	1,170
		企画	309	296	919	595	372	416	487	1,338	757	1,151	75	610	650	620
	調査研究		153	245	215	363	217	321	561	1,294	441	421	0	385	250	390
	収集・保管		791	851	1,722	1,256	853	701	1,512	2,743	1,548	1,011	88	1,189	1,800	1,200
	教育普及	図書室・ 情報ライ ブラリー	0	71	0	119	301	208	127	2,138	485	161	25	330		330
		会議室	33	150	53	117	0	93	437	0	202	51	62	109		110
講座・体 験学習		394	187	126	1,860	0	416	449	0	74	318	0	348		350	
出会い、交流機能														500	0	
学習支援・創造機能														450	0	
ネットワーク機能														50	0	
管理機能	事務・管 理室	236	164	149	207	1,191	177	155	241	695	183	340	340	400	340	
その他	共用部・ 機械室・ ミュージ アム	1,958	2,052	3,284	4,610	1,072	1,340	4,036	2,205	2,642	5,730	446	2,670	2,200	2,700	
総工事費		2,941	3,228	5,509	6,907	4,831	3,953	8,631	9,300	8,900	12,300	248	6,068			

諸室の割合

			一宮市博物館	安城市歴史博物館	岡崎市美術博物館	四日市市立博物館	松戸市立博物館	入間市博物館	相模原市立博物館	三重県立総合博物館	山梨県立博物館	豊田市立美術館	豊田市立郷土資料館	平均	今回提示案
延べ面積															
博物館 基盤機能	展示	常設	16.1%	17.2%	0.0%	10.1%	26.5%	32.9%	18.4%	7.6%	22.9%	18.8%	17.9%	16.2%	12.5%
		企画	6.7%	6.1%	14.2%	5.9%	6.8%	7.6%	5.1%	12.4%	8.6%	10.3%	6.0%	8.6%	9.0%
	調査研究		3.3%	5.0%	3.3%	3.6%	4.0%	5.9%	5.9%	12.0%	5.0%	3.8%	0.0%	5.4%	3.5%
	収集・保管		17.1%	17.5%	26.5%	12.4%	15.7%	12.8%	15.9%	25.4%	17.7%	9.1%	7.0%	16.7%	25.0%
	教育普及	図書室・ 情報ライ ブラリー		1.5%		1.2%	5.5%	3.8%	1.3%	19.8%	5.5%	1.4%	2.0%	4.6%	0.0%
		会議室	0.7%	3.1%	0.8%	1.2%	0.0%	1.7%	4.6%	0.0%	2.3%	0.5%	4.9%	1.5%	0.0%
講座・体 験学習		8.5%	3.9%	1.9%	18.3%	0.0%	7.6%	4.7%	0.0%	0.8%	2.9%	0.0%	4.9%	0.0%	
出会い、交流機能														6.9%	
学習支援・創造機能														6.3%	
ネットワーク機能														0.7%	
管理機能	事務・管 理室	5.1%	3.4%	2.3%	2.0%	21.9%	3.2%	1.6%	2.2%	7.9%	1.6%	27.0%	4.8%	5.6%	
その他	共用部・ 機械室・ ミュージ アム	42.4%	42.3%	50.6%	45.4%	19.7%	24.5%	42.4%	20.4%	30.2%	51.5%	35.4%	37.4%	30.6%	